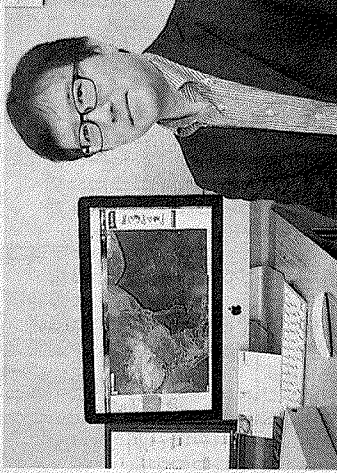


落雷地点 ウェブで瞬時に

湘南工科大・成田教授 全国13カ所に測定設備

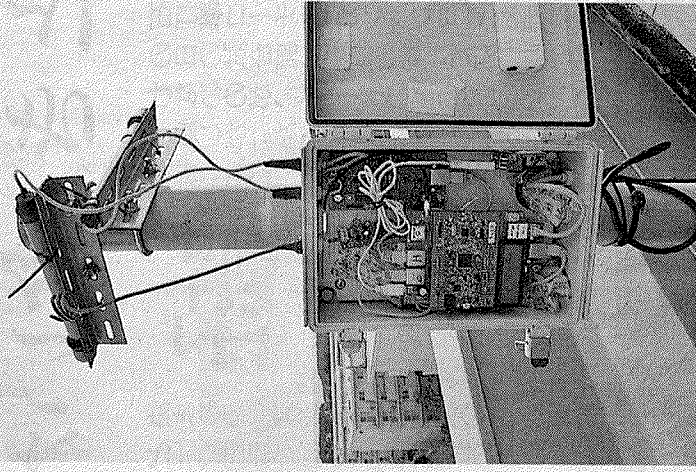
欧米の研究者たちがインターネットを利用して落雷地点を特定するホロンティアの国際ネットワーク構築プロジェクトに、湘南工科大(藤沢市辻堂西海岸1丁目)の成田知巳教授(52)が加わり、測定に必要な受信局を作って北海道から沖縄までの全国13カ所に設置した。落雷があれば、場所がウェブサイト地図に点で表され、誰でも無料で見ることができる。

落雷地点がリアルタイムでわかるウェブサイトと成田知巳教授



成田教授によると、プロジェクトのスタートは2012年。ドイツの研究者が低価格で組み立てられる小型受信局を独自に設計、賛同する欧米などの研究者たちが受信局を組み立てて置く活動が世界に広がった。現在、世界1千数百カ所に設置されている。昨年2月に国内で初めて落雷で放射される電磁波

を受信局のアンテナがキャッチすると、方位や受信時刻などのデータがデジタル変換されてインターネットでドイツのサーバーに瞬時に送られ、落雷地点が割り出される仕組み。受信局が多いほど特定が正確さを増す。



湘南工科大の研究棟屋上に設置された受信局。アンテナには防水対策が施されている

「防災対策に役立てて」

授という。東京・秋葉原で購入した安い市販の電子部品を組み立てるなどして受信局を作り、湘南工科大の研究棟の屋上に置いた。

それを皮切りに、これまで関東を中心に北海道や宮城、兵庫、福岡、沖縄の各県などの計13カ所に設置した。自宅のほか大学、知人宅にも置いたという。

「10年前には考えられないほど低コストで作れるのが大きい」と成田教授。製作費や旅費などの総経費は合計でも約100万円で、一般財団法人WNI気象文化創造センター選定の2016年度気象文化大賞の受賞で得た助成金を充てた。

ウェブサイト(<https://www.lightningmaps.org/>)の画面上を操作すると受信局のある場所が表示される。オレンジ色に光る点がいま落雷が起きている地点だ。地図を拡大すればどこに雷が落ちたか、詳しくわかる。これらがすべて無料で公開されている。

「雷が落ちた時の防災対策に役立てて欲しい」

受信局を増やそうと、富山市や米ハワイ、フィリピン、バンタラマシユなどでも設置交渉中だ。

(小 清 人)

アマ囲碁スターは学業両立 世界学生王座連覇



工学部って何を学べるの？

東海大生が高校生向けパンフ



機械に生命化学、建築に電気、航空も……。東海大の学生たちが、自身も入学前はよく知らなかった多様な「工学部で学べること」を紹介しようとして、高校生向けの冊子を作った。学部紹介だけでなく、エンジニアが社会でどう活躍しているかまわ

りやすく

